

一般財団法人国際協力推進協会

平成 29 年度事業報告書

I. 実施事業等会計

1. 太平洋島嶼国開発協力事業

- (1) 太平洋諸国・大学生招待計画
- (2) 太平洋諸国・記者招待計画
- (3) 太平洋諸国・リーダー招待計画
- (4) 太平洋諸国・環境セミナー
- (5) ミクロネシア・エクスポージャーツアー支援
- (6) ミクロネシア短期大学・学生招待計画
- (7) APIC・MCT 協力事業（大学院生招待計画）
- (8) Island Sustainability シンポジウム支援
- (9) ナン・マトル遺跡保存支援事業
- (10) ミクロネシア写真展
- (11) 第8回太平洋・島サミット（PALM）支援
- (12) 次年度以降の事業調査費

2. 日・カリブ友好協力事業

- (1) 西インド諸島大学・大学生招待計画
- (2) カリブ諸国・記者招待計画
- (3) カリブ諸国・リーダー招待計画
- (4) カリブ諸国・環境セミナー
- (5) カリブ諸国・アニメ専門家派遣計画
- (6) 西インド諸島大学・学長招待計画
- (7) 次年度以降の事業調査費

3. 国際協力に関する講演事業

- (1) APIC カントリー情報早朝講演会
- (2) 国際協力懇話会

II. その他会計

ミクロネシア連邦ザビエル高校留学生奨学金事業

III. その他の事業

平成 29 年度事業の内容

I. 実施事業等会計

1. 太平洋島嶼国開発協力事業

(1) 太平洋諸国・大学生招待計画

実施期間 2018 年 1 月 8 日～2 月 1 日。ミクロネシア短期大学、パラオ短期大学、マーシャル短期大学、南太平洋大学から各 2 名、合計 8 名を招待した。学生は、上智大学の短期プログラム **January Session in Japanese Studies** に参加、必修科目の「日本語」に加え、「日本の企業と経済」・「日本におけるメディアと時事」・「日本の教育」・「現代の日本文化と社会」の選択科目を受講した。また、授業の一環で、小中学校の視察や日本人へのインタビューを行い、プレゼンテーションを通して、日本の経済や社会、文化に対する理解を深めた。APIC も、大学での授業のほか、横浜みなとみらい、千葉県香取市佐原、鎌倉などの観光や、杉並アニメーションミュージアムでアニメの歴史を学ぶ機会を提供し、学生は、日本の伝統文化や歴史だけではなく、ポップカルチャーについても知見を広げることができた。

本事業は、日・カリブ友好協力事業の西インド諸島大学学生招待計画と趣旨が同じであることから、一体の事業として実施しており、異なる地域の学生が一堂に会して学び、共に生活し、意見交換を図ることができるシナジー効果もあり、参加者からは貴重な経験ができたと高い評価を得ているほか、大学関係者のみならず現地の議員や大使館からも日本との友好関係に大きく貢献する事業であると高い評価を得ている。

(2) 太平洋諸国・記者招待計画

2017 年 10 月 16 日～26 日に公益財団法人フォーリン・プレスセンターの協力を得て実施。太平洋島嶼国とカリブ諸国から計 6 名のジャーナリストを招待した。本計画は有力記者を招待して、我が国の環境保護、防災、エネルギー利用などについて理解を深めてもらい、もって我が国の現状についての広報をそれぞれの国で行ってもらうものである。本年度は、島嶼国が共通して抱える課題「環境と防災」をテーマにし、9 日間のプログラムで視察を行った。東京では、外務省、JICA、川崎市ゴミ集積所、東京消防庁本所防災会館などを訪問し、日本と各国の協力関係、環境と防災分野に関する日本での取り組みについて視察を行い、関係者のブリーフィングを受けた。

各記者は、滞在中から積極的に取材記事を書き、直ちに現地の新聞に掲載された。また、帰国後も継続的に日本に関する記事を発展しており、所期の目的を達成できている。

(3) 太平洋諸国・リーダー招待計画

本年度は、太平洋諸国から以下の5グループ、合計6名のリーダーを招待した。

① ミクロネシア・ポンペイ州のピーターソン知事、モセス連邦議会副議長の招待（2017年8月）。

我が国のオピニオン・リーダーである山際大志郎衆議院議員（日本太平洋島嶼国友好議員連盟事務局長）との会談を行うとともに、環境、エネルギー、観光に関連する視察を通じて我が国についての理解を深めてもらう観点から、(川崎市の)ごみ処理施設、関西で民族博物館、平城京、東大寺、金閣寺、清水寺等の世界遺産を視察してもらい、同国の世界遺産であるナンマトル遺跡保護の参考としてもらった。また、先方の希望により、鹿児島県枕崎市の鯉節工場にも案内した。

② サモア独立国よりアフアマサガ通信・情報技術大臣を我が国の招待（2017年11月）。

大臣は海底ケーブルを利用した新事業としてコールセンターやデータセンター事業を考えており、ICT関連事業を展開している日本企業を訪問、自国での事業展開のために有意義な視察となった。

③ ミクロネシア連邦元大統領のウルセマル連邦議員を我が国に招待（2017年11月～12月）。

堀井巖外務大臣政務官への表敬訪問、日本・太平洋島嶼国友好議員連盟会長の古屋圭司衆議院議員ほか3名の議員と懇談し、活発な意見交換が行われた。また、上智大学で四谷キャンパスの中央図書館、クルトゥルハイム聖堂を視察したほか、テンプル大学東京校のストロナク・ブルース学長に面会し、ミクロネシアからの学生受入について意見交換を行った。APIC 佐藤理事長主催の歓迎夕食会においては、元大統領からザビエル奨学金に多大な寄付を行った坂本光彦氏に対するミクロネシア連邦議会の感謝決議が手交された。

④ フィジー共和国・ヨゲシュ・カラン首相府次官の招待（2018年3月）

初日は、JETRO 佐藤百合理事との面会、堀井巖外務大臣政務官との昼食会、衛藤晟一内閣総理大臣補佐官（フィジー共和国議員連盟筆頭副会長）との意見交換行い、夕には APIC 佐藤理事長主催の歓迎夕食会が帝国ホテルにて行われ、マタイトガ在京フィジー大使や外務省幹部をはじめ、日本国内におけるフィジー関係者が一堂に会する機会となった。2日目は環境省高橋康夫地球環境審議官、日本政府観光局（JNTO）松山良一理事長、JICA 江島真也理事と面会し意見交換を行った。環境省では、フィジーが COP23 の議長国を務めた経緯から気候変動を中心に活発な意見交換が行われ、JNTO では日本とフィジーの直行便再開を踏まえた観光促進、両国間の人的往来の促進を中心に幅広い意見交換が行われた。また、京都を訪れ、三十三間堂など日本仏教との関係を感じ入られるなど観光を楽しまれ、外務省の石川和秀関西担当大使にはの歓迎夕食会を開催していただいた。次官からは、実質的に実りのある訪問であったとの感想を頂いた。

⑤ 元サビエル高校校長・フランシス・ヘーゼル神父の招待（2018年5月）。

同神父は、ミクロネシアの研究者としても著名で、APIC は上智大学との共催で講演会を開催（130名の参加）、この様子は現地新聞でも大きく報じられた。

これらのリーダー招待計画によって、招待者は、日本のオピニオン・リーダーとの意見交換や環境分野における我が国の最新技術の見学に加え、文化遺産に関する視察も行うことができ、太平洋島嶼国と我が国との友好関係をより一層強めるうえで有意義なものであったと思われる。

(4) 太平洋諸国・環境セミナー

2018年3月、ミクロネシア連邦のポンペイ島コロニアにおいて、開催。今回で3回目。本事業は、2015年7月に上智大学と共催で「太平洋地域における環境保全シンポジウム」を開催して以来、環境セミナーシリーズとしてパラオ(2015年8月)、ジャマイカ(2016年10月)、マーシャル諸島(2017年3月)、バルバドス(2017年9月)と各地で開催してきたものである。今回はAPICからは佐藤嘉恭理事長、本多義人評議員が参加し、セミナーにはピーターソン・ポンペイ州知事をはじめ、ミクロネシアの伝統的なリーダーや高校生も含め、合計60名を超える人の参加があった。講師は過去と同様、上智大学大学院地球環境学研究科のあん・まくどなど教授で、気候変動による環境の変化への対応や伝統的な知見に基づく持続的な環境保全についての講義を行い、質疑応答も活発に行われた。セミナーの直後から、まくどなど教授が引率するスタディツアーが始まり、上智大学院生14人が約1週間ポンペイ州の村落で聞き取り調査を行い、環境保護のための伝統的な言い伝えを文書化する調査報告書が作成されるなど、セミナーとスタディツアーの連携と相互作用が生まれ、非常に有意義のあるセミナーとなった。

(5) ミクロネシア・エクスポートツアー支援

上智大学生のミクロネシア短大等でのフィールドワークについては、昨年度から上智大学の正式科目「ミクロネシア・エクスポートツアー」として単位化され、APICの佐藤昭治常務理事(上智大学グローバル教育センター客員教授)が担当教員として引率し、学生は寮に滞在しながら、現地の有識者による特別講義を受けた他、ミクロネシアの歴史・文化・社会を肌で感じる体験学習をした。帰国後、学生たちはレポート作成及び事後報告会を行ったが、今後ミクロネシアのために自分ができることをしていきたいと述べる学生が多く、ミクロネシアの理解及び日・ミクロネシアの友好関係の増進という観点でも、同様に支援する意義は認められる。

(6) ミクロネシア短期大学・学生招待計画

上記(5)のように、上智大学・同短期大学はミクロネシア短期大学(COM)との連携協定に基づき、学生にCOMでの滞在の機会を与えている。また、麗澤大学も同様に、連携協定に基づき、学生をCOMへ派遣するプログラムを実施している。この対の事業として実施するのがCOM学生の受入れ事業で、本年度で2回目となる。

本年度は2つの招待計画を実施した。即ち、①COMで日本語を学ぶ学生を1名を2017年9月から半年間、麗澤大学外国語学部特別聴講生として日本語のプログラムに参加させた、②同じくCOMから4名(麗澤大学へ男子学生2名、上智大学短期大学部へ女子学生2名)の学生を短期留学(2017年11月に約3週間)させた。学生は日本人学生との交流やホームステイ等を体験するなど、交流がさらに広がり、(5)の日本の学生がCOMで学ぶ一方で、(6)でCOMの学生が上智大学等で学ぶという双方向のExchangeが実現出来て意義のあるプログラムであった。

(7) APIC・MCT 協力事業（大学院生招待計画）

APIC とミクロネシア自然保護基金(Micronesia Conservation Trust (MCT))との連携協定に基づき、前年度までは豚小屋プロジェクトや水タンクといったプロジェクト支援をしていたものを、本年度は、長期的観点から環境関連に携わる人材の育成ということで、2名が上智大学大学院地球環境学研究科への留学を実現した。

(8) Island Sustainability シンポジウム支援

2017年7月に上智大学大学院地球環境学研究所と共催シンポジウムを上智大学にて開催した。上智大学と連携協定に基づき、これまで環境セミナーを開催してきた国や環境関連団体とのネットワークを構築する視点から、西インド諸島大学、MCT からパネリストを招いた。

(9) ナン・マトル遺跡保存支援事業

ユネスコ世界遺産に登録された FSM ポンヘイ島のナン・マトル遺跡について、カンボジアのアンコールワット遺跡の修復で実績のある上智大学石澤元学長、ナン・マトル遺跡の第1人者である関西外国語大学の片岡教授等の協力を得て、草の根無償支援のための申請にかかる支援を行った。現在、大使館から外務本省に申請書が提出され検討中。

(10) ミクロネシア写真展

2017年5月に上智大学で実施した、「南洋の光」と題したミクロネシア写真展を、津田塾大学においても、津田塾大学との共催（ミクロネシア連邦大使館の後援）で、2017年10月16日から11月7日までの約3週間、開催した。

写真展では、ハワイ在住の著名な写真家であるフロイド・タケウチ氏の作品、合計15枚の写真が展示された。作品の舞台は、ミクロネシア連邦のチューク環礁および上智大学と提携しているザビエル高校で、ザビエル高校生の生活が映し出された写真や澄み渡った海、降り注ぐ光の中の環礁の美しさに観覧者は魅了されていた。

初日には、オープニング記念レセプションが津田塾大学小平キャンパスで開かれ、津田塾大学高橋裕子学長を始め、関係者が集った。また、佐藤常務理事による講演会を開催、フロイド・タケウチ氏による講演会を開催し、学生や地域の方を含め約200名が参加を頂いた。

(11) 第8回太平洋・島サミット (PALM) 支援

外務省から特段の依頼がなく、PALM8にかかる事業は実施しなかった。

2.日・カリブ友好協力事業

(1) 西インド諸島大学・大学生招待計画

実施期間、平成30年1月8日～2月1日までの1ヵ月間、西インド諸島大学(UWI)の学生8名(ジャマイカ3名、バルバドス1名、ガイアナ1名、トリニダード・トバゴ2名、イギリス領ヴァージン諸島各1名)を太平洋諸国の大学生と同時に招待し、上智大学の主催する短期プログラム「January Session in Japanese Studies」に参加させ、我が国に対する基礎講義の受講を中心に、日本の学生との交流(上智大学など)や教育、国際支援関連施設の視察の機会を提供した。

本事業は、太平洋島嶼国開発協力事業の太平洋諸島大学学生招待計画と趣旨が同じであることから、本年も一体の事業として実施した。

異なる地域の学生が一堂に会して学び、共に生活し、意見交換を図ることができる場を提供できたというシナジー効果もあり、参加者からは貴重な経験ができたという高い評価を得ているほか、UWI関係者は元より、現地及び駐日大使館からも日本との友好関係に大きく貢献する事業であると高い評価を得ている。

(2) カリブ諸国・記者招待計画

昨年に引き続き、太平洋諸国・記者招待計画と同時にカリブ諸国からも、グレナダ、バルバドス、ジャマイカから計3名の記者を招待した。

内容は、上記の太平洋諸国記者招待計画と同様である。

(3) カリブ諸国・リーダー招待計画

実施期間、2017年7月9日～14日。第2回目となる本年度のカリブ若手リーダー招聘計画では、ジャマイカより、ルエル・B・リード(Ruel B. Reid)教育・青年・情報大臣を招待した。(同行者5名を合わせ計6名のミッション)。

日本滞在中は、文部科学省では、日本のIT教育及び防災教育のブリーフィングを受けた。松野博一文部科学大臣及び外務省の武井俊輔外務大臣政務官を表敬訪問したほか視察先の大きな柱となった教育現場の視察では、APICと連携協定を結んでいる上智大学に加え、東京海洋大学、宮城県立多賀城高等学校、都立小石川中等教育学校を訪問し、防災教育、海洋学教育、先進的な理数教育などについて理解を深めた。

APIC主催のレセプションでリード大臣は、今回の訪日は素晴らしいものであると本事業を高く評価していたほか、帰国後早速多賀城高校で視察した教育のカリキュラムを取り入れるなど、訪問の成果が目に見えるかたちとなった。彼らが自国に持ち帰った日本での経験や日本の知識は、ジャマイカの今後役に立つものになると思われる。

(4) カリブ諸国・環境セミナー

海外での環境セミナーは、APIC と上智大学の協力協定 (MoU) に基づき、パラオ (2015 年 8 月)、ジャマイカ (2016 年 10 月)、マーシャル諸島 (2017 年 3 月) と各地で開催してきた。本年度、2017 年 9 月 18,19 日にバルバドスにある西インド諸島大学 (UWI) ケイブヒル校、上智大学及び在バルバドス日本国大使館との共催で、カリブ地域では 2 回目となる環境セミナー及びワークショップを開催した。日本からは APIC 島内憲評議員と、上智大学大学院地球環境学研究科あん・まくどなど教授が参加した。

ワークショップでは”The Role of Research Partnerships in Promoting Sustainable Development”をテーマにパネルディスカッションが行われた。近年問題となっているサルガッスム海藻の大量発生の被害防止対策と資源利用、中米カリブ地域における生物多様性保護、漁業振興等に関し、バルバドス側関係者がプレゼンを行い、まくどなど教授がコメントをする形で活発な議論が行われた。講演では、まくどなど教授が、”Lessons from the Field: Exploring Culturally and Environmentally Relevant Solutions to Increasing Environmental Challenges of Climate and Biodiversity Loss.”という題で、基調講演を行い、日本国内の沿岸漁業の実態調査の成果を紹介しつつ、環境問題改善のアプローチを論じ、質疑応答では沿岸漁業と環境保全の連関性等に関し、活発な意見交換が行われた。

今回のセミナーでは、我が国とバルバドスの研究者・専門家を集めるという初の試みがあり、UWI、ケイブヒル校資源管理・環境学センター (CERMES)、バルバドス側関係機関、外交団等から約 20 名の参加を得て、有意義かつ質の高い意見交換の場となった。また、バルバドスの主要日刊紙が紙面を大きく割いて報道し、広報効果もあげることができた。

(5) カリブ諸国・アニメ専門家派遣計画

2017 年 8 月 31 日～9 月 6 日、デジタルハリウッド大学大学院の高橋光輝准教授をバルバドスに派遣し、現地で開催されたアニメのイベント「アニメコン (AnimeKon)」において日本のアニメについてのプレゼンテーションを行い、併せて、西インド諸島大学 (UWI) ケーブヒル校において講義を行った。

高橋准教授の講義では会場が満席となる約 50 名の参加者が集い、講義の後には積極的な質疑応答が行われた。ケーブヒル校のバリトー学長と面会し、今回の訪問の報告を行ったところ、学長からは、これから発展していくアニメ分野に関して専門家育成のためぜひ指導を行ってほしいと高橋准教授に要請があった。

今回の訪問は現地の新聞でも取り上げられたほか、現地の唯一の国営放送である朝のニュース番組 CBC に、高橋准教授と APIC 荒木理事・事務局長が出演し、訪日の目的や APIC の活動についてインタビューを受け、広報効果もあげることができた。

(6) 西インド諸島大学・学長招待計画

2017年9月22日～30日の約1週間、西インド諸島大学（UWI）、セント・オーガスティン校のブライアン・コープランド（Brian Copeland）学長を日本へ招待した。主な視察テーマとして、①大学発ベンチャー（知的財産の事業化）②中小企業の起業支援③近代農業及び先端農業技術の3つを挙げ、これらにかかわる視察を行った。①では早稲田大学へ、②では東京都立産業技術センターへ、③では株式会社ルートレック・ネットワークスの実証実験農場を訪れたほか、気象庁も訪問し、防災に関する視察を行い、それぞれの場所で活発な意見交換を交わした。トリニダード・トバゴの「国民楽器」であるスチールパンの電気音響フライパン（G-Pan）の発明者である学長は、日本でスチールパンを演奏しているバンドのメンバーとの懇談も行ったほか、京都も観光した。コープランド学長の意向に沿って日程を組み、多くの視察先を提供できたことで、日本の大学との関係強化と日カリブの友好関係の促進に資するものとなった。

3.国際協力に関する講演事業

(1) APIC カントリー情報早朝講演会

平成 28 年度も下記の通り、外務事務次官、局長クラスの幹部を講師として招き、国際情勢、外交、経済に関する講演と意見交換会を実施した。

	開催日	講師役職	氏名	演題
第 338 回	平成 29 年 7 月 20 日	外務審議官(経済)	片上 慶一	G 7 /G20 サミット
第 339 回	9 月 21 日	前駐インドネシア共和国 特命全権大使	谷崎 泰明	最近のインドネシア情勢と日・伊関係の課題と展望
第 340 回	10 月 19 日	外務省 アジア大洋州局審議官	石川 浩司	中国及び朝鮮半島情勢―北京の視点を踏まえて
第 341 回	11 月 16 日	外務省欧州局長	正木 靖	日露関係と欧州情勢
第 342 回	12 月 21 日	外務省北米局長 北米局参事官	森 健良 船越 健裕	トランプ米国大統領下の米国情勢と日米関係 -回顧と展望-
第 343 回	平成 30 年 1 月 18 日	外務事務次官	杉山 晋輔	2018 年の日本外交―課題と展望―
第 344 回	2 月 15 日	外務省経済局審議官	飯島 俊郎	日本の経済外交の現状と展望
第 345 回	3 月 15 日	前駐フィリピン共和国大使	石川 和秀	最近のフィリピン情勢と日比関係
第 346 回	4 月 19 日	前駐サウジアラビア大使	奥田 紀宏	サウジアラビアの改革と日本
第 347 回	5 月 17 日	外務省地球規模課題審議官	鈴木 秀生	気候変動と SDGs に関する日本の取組
第 348 回	6 月 21 日	外務審議官(経済)	山崎 和之	本年のサミット並びに日本の課題

(2) 国際協力懇話会

平成 30 年 1 月 30 日、東京倶楽部に於いて、木寺昌人 駐フランス共和国特命全権大使木寺大使を迎えて第 10 回国際協力懇話会を開催した。「フランスから見た 2018 年の世界」と題して、マクロン大統領の就任後の動向やフランスの近況分析を踏まえて、英国の EU 脱退をはじめとした欧州各国との関係や今後の国際社会情勢について、お話を頂いた。

II. その他会計

ミクロネシア連邦ザビエル高校留学生奨学金事業

平成 26 年 4 月、APIC 及び上智大学、ザビエル高校の間でザビエル高校卒業生の受け入れを取極めた協定(MoU)が締結され、同年 9 月、留学生第 1 号として、Mary Helen Mori さん(ミクロネシア連邦チューク州出身)が来日、翌平成 27 年には二人目の留学生 Risa Mariana Oue さんが、平成 28 年 9 月には Andrei Miguel Diolola Ronquillo 君が、昨年 9 月には、初めての試みとして留学生 2 名を受け入れることを決定し、Shaun Mingii 君並びに Liana Preston-Irons さんが来日した。5 名は現在上智大学国際教養学部在籍し、勉学に励んでいる。本年 9 月には第 1 期生の Mary Helen Mori が卒業予定である。

留学生の受け入れのための募金活動も継続的に行われ、多くの篤志家などから懇切な募金が寄せられている。

III. その他の事業

その他の活動の詳細については、理事長及び常務理事の職務執行状況としてご報告する。